

授業改善に関する連携大学教員意識調査の結果

(2010年3月実施)

はじめに

前回の調査では授業評価アンケートに対する教員の意識を調査し、授業評価の結果を授業改善につなげる意識は概ね高いという結果が出ました。今回の調査の主な目的は、(1)教員個人としての授業改善に関する取り組みの現状と意識を把握し、(2)授業改善の方法を連携校教員と情報共有する、の2点です。

本調査は、放送大学ICT活用・遠隔教育センター(旧メディア教育開発センター)のWebアンケートシステムREAS(リアルタイム評価支援システム)を使って実施しています。また、質問項目(8)、(10)の定性項目のデータ分析は、テキストマイニングソフト「True Teller」(野村総研)を利用しています。

1. 基礎データ

回答者数 201名(回答率 約8.7%)

性別 男性75%、女性25%

年齢 30代21%、40代27%、50代32%、60以上21%

職位 教授50%、准教授28%、専任講師13%、助教・助手7%、その他1%

授業経験年数 5年未満15%、5年以上～10年未満20%、10年以上～20年未満27%、20年以上35%

2. アンケートの回答(定量項目)

各項目に関して、以下の3点を簡潔に述べる。

結果：5段階評価の項目(1)(6)(7)(9)(11)は、「強くそう思う」「そう思う」など上位2段階を含めた肯定評価の割合(%)。複数選択可の項目(2)(3)(4)(5)は、本文では40%以上の選択肢のみ表記。

検討点：質問項目に関して、本システムWGによる今後の検討が望まれる点(必要な項目のみ)

(1) 日常的に授業改善を意識していますか？

結果：約99%の教員は授業改善を意識して授業に取り組んでいる。

(2) 授業改善をしようと思いついたきっかけは何でしたか？

結果：授業改善は、組織的な働きかけより、自分で必要と気づく教員が多く、また受講生からの意見で気づく場合も多い。

検討点：各教員が個々に授業実践を自省して改善する機会の創出。気付いた時の組織的なフォロー、サポート体制。

(3) 授業の手法等で、どのような工夫をしていますか？

結果：授業の手法の工夫として、プリントを工夫し、学生の理解度を考え、授業進行と話す速度を考慮している。

検討点：授業手法の工夫アイデア集の作成

(4) 対話型授業を取り入れていますか？

結果：対話型授業の導入として、発言を促す、質問・感想を書かせるなどを工夫している。講義系の授業で受講生が情報発信する機会を設定している教員は5割弱である。

検討点：学習の動機づけと学習効果が高まるような、(一授業形態としての)対話型授業のモデル提示

(5) どのような方法で授業外学習を促していますか？

結果：授業外学習として、個別あるいはグループでの課題を出す、図書館等の利用などで工夫している。

検討点：受講生の学習効果が高まるグループ課題の内容や取り組み方

(6) ご自分の授業改善のための努力は、効果が上がっていると思いますか？

結果：設問(1)では99%の教員が授業改善に取り組んでいるとの結果であったが、自らのその効果が上がっていると考える教員は約63%である。

(7) ご自分の授業で、今後さらに改善が必要だと思いますか？

結果：設問(6)では約 63%の教員が授業改善の効果が上がっていると考えているが、約 91%の教員がさらなる教育改善が必要と考えている。

検討点：授業改善の助言や情報を提供する組織運営

(9) 授業改善について教員同士が相談しあうことが必要だと思いますか？

結果：設問(1)、(6)では 9 割以上の教員が授業改善を意識しているとの結果が出ており、さらに約 74%の教員は教員同士で相談することを必要と考えている。

検討点：教員同士がボトムアップ的に授業改善について相談しあう場や土壌の構築

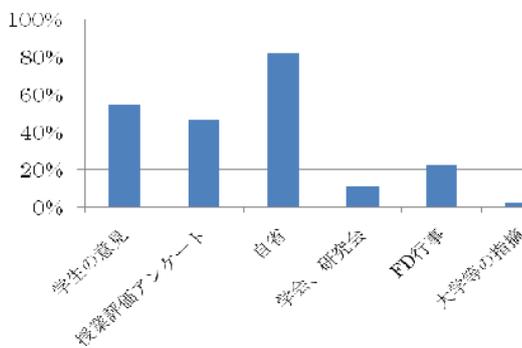
(11) 授業改善に関して、職員（事務職員等）の協力が必要だと思いますか？

結果：約 63%の教員は、授業改善に職員の協力が必要と考えている。

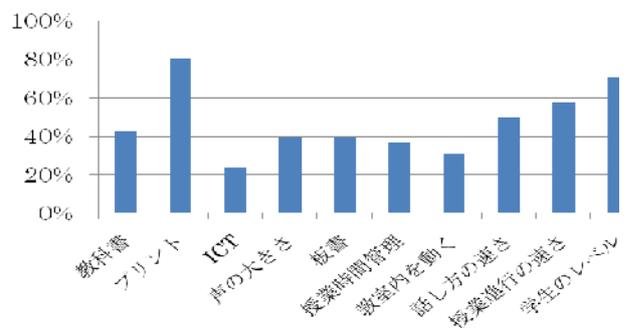
検討点：授業改善に向けた教職員の協調体制、協力する業務内容の仕分けと調整

以下、複数選択可の項目(2)(3)(4)(5)の結果をグラフに示します。

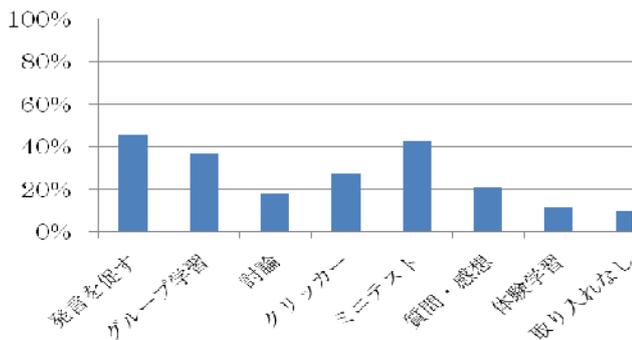
(2) 授業改善のきっかけ



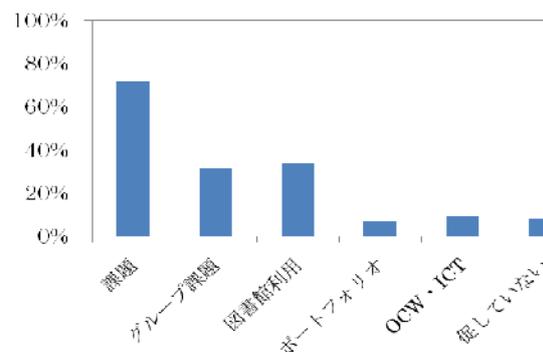
(3) 授業の手法の工夫



(4) 対話型授業の取り入れ



(5) 授業外学習の促進方法



3. アンケートの回答（定性項目）

ここでは、自由記述を求めた項目(8)、(10)、(12)への回答を、テキストマイニングソフト「True Teller」（野村総研）を使って分析した結果を報告します。

分析対象とした項目と回答数

(8) ご自分の授業で、今後どのような改善が必要だと思いますか？

(10) 組織的に授業改善を進めるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか？

(12) 授業改善に関して、職員（事務職員等）に協力を求めたいことは何ですか？

201名の回答者のうち、項目(8)に 125件(62%)、項目(10)に 118件(59%)、項目(12)に 91件(45%)の回答がありました。

頻出単語と話題

3つの項目に対する回答で、頻出した名詞を表1、表4、表7に示しました。ここでは、主な話題を抽出することを目的としたため、内容に直接関わることの多い名詞のみを分析対象としています。また、以下ではさらに、頻出単語のうち特に分析が必要と考えられる単語と係り受け関係のある単語（名詞、形容詞、動詞）を分析しています。

項目(8)「ご自分の授業で、今後どのような改善が必要だと思いますか？」

どのような授業改善が必要だと考えるかを尋ねた項目(8)では、1番に「学生」(69件)が現れており(表1)、授業改善は学生を中心に考えられていることが示唆されます。表2には、「学生」に対する係り受けとして出現している単語を示しました。全体でも頻出単語に現れている「レベル」「意欲」「興味」「関心」「理解度」等の単語が「学生」とともに使われている場合が多く、その他の学生に対する係り受けとあわせ、授業改善が学生にあわせることによって考えられていることが読み取れます。

他の出現単語のうち、質問文に含まれる単語(授業、必要、改善)またはその類義語(工夫、講義)は、記述されるのが当然ですので分析対象から除きます。さらに上記の「学生」と関係の深い語以外の頻出単語として、「内容」(19件)を取り上げました。「内容」に対する係り受け(表3)を見ると、その「改善」「工夫」といったある意味で出現するのが当然の表現の他に、「減らす」「絞る」「取捨選択する」といった単語が現れており、内容を絞って授業を構成しようとしている教員が一定数あることが推察されます。

項目(8)「ご自分の授業で、今後どのような改善が必要だと思いますか？」

表1 項目(8) 頻出単語(名詞のみ)

	単語	頻度	件数
1	学生	89	69
2	授業	63	48
3	工夫	26	24
4	内容	24	19
5	レベル	19	15
6	意欲	15	15
7	講義	16	13
8	必要	15	13
9	改善	15	12
10	課題	10	10
11	興味	11	9
12	学習	9	8
13	関心	9	8
14	対話型	9	8
15	理解度	8	8
16	それ	7	6
17	教材	8	6
18	テキスト	6	5
19	学力	6	5
20	時間	6	5
21	板書	5	5

表2 項目(8)「学生」との係り受け

No.	単語	品詞	頻度	件数
1	レベル	名詞	8	8
2	理解度	名詞	7	7
3	意欲	名詞	5	5
4	関心	名詞	3	3
5	興味	名詞	3	3
6	参加する	動詞	3	3
7	取り組む	動詞	3	3
8	ない	形容詞	2	2
9	ニーズ	名詞	2	2
10	意見	名詞	2	2
11	異なる	動詞	2	2
12	考える	動詞	2	2
13	持つ	動詞	2	2
14	示す	動詞	2	2
15	理解する	動詞	2	2
16	あげる	動詞	1	1
17	ある	動詞	1	1
18	いる	動詞	2	1
19	つく	動詞	1	1
20	もつ	動詞	1	1

表3 項目(8)「内容」との係り受け

No.	単語	品詞	頻度	件数
1	つなげる	動詞	1	1
2	ない	形容詞	1	1
3	ポイント	名詞	1	1
4	みる	動詞	1	1
5	わかる	動詞	1	1
6	引く	動詞	1	1
7	改善	名詞	1	1
8	改善する	動詞	1	1
9	確認する	動詞	1	1
10	学習する	動詞	1	1
11	減らす	動詞	1	1
12	工夫	名詞	1	1
13	工夫する	動詞	1	1
14	絞る	動詞	1	1
15	講義する	動詞	1	1
16	合わせる	動詞	1	1
17	持たせる	動詞	1	1
18	取り入れる	動詞	1	1
19	取捨選択する	動詞	1	1
20	授業	名詞	1	1

項目(10) 「組織的に授業改善を進めるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか？」

組織的な授業改善について尋ねた項目(10)では、頻度1番は「授業」(53件)でした(表4)。「授業」は質問の主題に関わる単語であり、頻出するのが当然ではありますが、非常に頻度が高いためその係り受けを検討しました。表5で1番頻度の高い「授業」－「改善」の係り受けは質問内容そのものですので除いて考えると、「見学」(見る, 見学する)「公開」(公開する, 公開制度)など、授業公開に関わる記述が多くみられることが分かります。そこで、授業公開や模擬授業に関連すると思われる表現を全体から集めたのが表6です。一部に否定的な意見も含まれますが、組織的な授業改善と言ったときに授業公開を考え、かつそれに肯定的意見をもつ教員がかなりいると考えられます

その他の頻出単語のうち、質問文に含まれる語を除くと、上位には「教員」(41件)や「学生」(18件)があります。しかし、これらの単語はさまざまな異なった使い方がされており、特定の関連したテーマを読み取るのは難しいようです。また、「FD」(17件)は本アンケート実施の趣旨等からして当然と言えますが、組織的な授業改善として各種のFD活動が挙げられています。また、ここに挙げられたいくつかの単語にまたがって現れるものとして、「情報」(意見)－「交換」, 「学部」「学科」(単位での, あるいはそれを超えて)の集まりや情報・意見の交換, 「話し合い」を、組織的取り組みとしてあげた回答も多くみられました。

項目(10)「組織的に授業改善を進めるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか？」

表4 項目(10)頻出単語(名詞のみ)

No.	単語	頻度	件数
1	授業	72	53
2	教員	52	41
3	改善	29	22
4	学生	23	18
5	FD	23	17
6	取り組み	19	16
7	必要	11	11
8	学部	11	10
9	教育	12	10
10	情報	10	10
11	講義	15	9
12	それ	10	8
13	交換	8	8
14	大学	9	8
15	評価	10	8
16	学科	9	7
17	内容	7	7
18	意識	6	6
19	活動	10	6
20	相互	6	6
21	目標	6	6
22	意見	5	5
23	意欲	5	5
24	機会	5	5
25	公開	5	5
26	場	5	5
27	人	6	5
28	組織	6	5
29	話し合い	5	5

表5 項目(10)「授業」との係り受け

No.	単語	品詞	頻度	件数
1	改善	名詞	23	19
2	内容	名詞	6	6
3	行う	動詞	4	4
4	評価	名詞	4	4
5	ある	動詞	2	2
6	見学	名詞	2	2
7	公開	名詞	2	2
8	参観する	動詞	2	2
9	お互い	形容詞	1	1
10	さらす	動詞	1	1
11	すすめ方	名詞	1	1
12	そのもの	名詞	2	1
13	もと	名詞	1	1
14	見る	動詞	1	1
15	見学する	動詞	1	1
16	公開する	動詞	1	1
17	公開制度	名詞	1	1
18	工夫	名詞	1	1
19	構築	名詞	1	1
20	行われる	動詞	1	1

表 6 項目(10)で、授業公開に関連した回答（関連部分のみの抽出）

1	模擬授業を実施して改善点を指摘してほしい
2	相互の授業を見学してコメントを述べる
3	相互の授業を公開する必要がある
4	TEAM TEACHING、お互いの授業を参観する。
5	授業公開制度を活用して、先生方同士の意見の交流を深める
6	授業を公開し、その職員の意見のフィードバックを通してを授業改善につなげる
7	教員が学生役をつとめて模擬授業を行い、良い点や改善点を洗い出す。
8	授業公開、模擬授業をもとにしたFD
9	公開授業
10	お互いに授業参観し合う
11	お互いの授業見学。
12	研究授業などの実施
13	【否定】うまい人の授業を見たところで、同じように出来るとは思えません。
14	授業の公開やさらなるFDの取り組みが必要と思う。
15	授業参観、発表会
16	授業見学、改善についての話し合い
17	教員同士が互いの授業に出席し、意見を出し合う。

項目(12) 「授業改善に関して、職員（事務職員等）に協力を求めたいことは何ですか？」

表 7 で、頻度 1 位の「授業」(33 件)は、質問の主題に関する単語です。これに続いて頻度が高いのが「学生」(20 件)でした。回答の中でさまざまな使い方がされてはいましたが、事務職員に学生との対話や学生の状況把握を求める意見が一定数あることが、質問(12)で「学生」が第 2 位に来ていることの一つの理由と考えられます。

この項目(12)は、他の 2 つの自由記述項目と比較して回答数が少ないため高頻度の単語が少なく、個別の頻出語としてはまとまった話題が抽出されにくいようです。しかしながら全体としてみると、授業準備や授業環境の整備に関連した協力を求めている教員が多いことが、「管理」「機器」「教室」「準備」「環境」「プリント」「教材」等の単語に現れています。

表 7 頻出単語(名詞のみ)

	単語	頻度	件数
1	授業	49	33
2	学生	28	20
3	教員	17	14
4	職員	17	12
5	支援	12	10
6	事務	12	10
7	情報	8	8
8	意見	7	7
9	管理	7	7
10	機器	7	7
11	教育	8	7
12	教室	8	7
13	準備	9	7
14	FD	8	6
15	環境	6	6
16	プリント	6	5
17	改善	5	5
18	協力	5	5
19	教材	5	5
20	現在	5	5
21	大学	5	5
22	理解	5	5

4. 全体を通じて

多くの教員が授業の手法、対話型授業の実践、授業外学習などの面で、多様な工夫を凝らして授業改善に取り組んでいるという実態が明確になりました。全体的に「授業改善」に関する肯定評価が非常に強く、99%の教員が授業改善を意識し、91%の教員がさらなる改善の必要性を意識しています。組織的なフォローアップ次第で、授業改善に向けた各教員の意識をボトムアップ的に高め、大学全体のFD活動の活性化へと発展させていくことは可能と解釈できます。また、授業改善に対して、教員同士の連携は7割程度、職員の協力は6割程度の教員が必要と考えており、効果的な授業改善に向けた教職員の連携・協力の体制づくりが必要と解釈できます。

本調査結果は、回答された201名（約8.7%）の教員のデータに基づいています。1回目の「学生による授業評価に関する教員意識調査」の14%より若干低い回収率でした。連携校の全教員の傾向を調査結果に反映させるために、今後も回答率を高める努力をする必要があります。

以上

2010年6月

京都FD開発推進センター／FDシステム検討WG